



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2020年  
7月13日  
発行

## 第43回 「コロナ後の日本企業の成長戦略」

### ～立ち上がる日本企業～

#### 初めに

新型コロナウイルスの経済への影響はリーマンショック以上といわれます。しかし日本企業の間では、逆にこれを好機と見て、独自の成長戦略を打ち出している例も少なくありません。今回はそうした日本企業を紹介します。

#### トヨタとNTTのスマートシティ構想

トヨタとNTTはスマートシティビジネスの事業化で提携しました。スマートシティに明確な定義はありませんが、交通、治安、防災など都市が抱える問題をITの力を借りて解決する都市といったイメージです。最近では感染症対策の観点からも注目されています。各国で研究されており、日本は遅れているとの声もありますが、日本を代表する企業が、手を組んだことで今後が注目されます。

#### 技術の日産へ

日産は6月30日に国内向けの新車キックスを発売しました。キックスには2つの意味があります。1つは欧州重視の修正、もう1つは技術の日産への回帰です。ゴーン体制の下では欧州市場が重視され日本では新車がでない状況が続きました。キックスは2年半ぶりの国内の新車です。またゴーン体制では販売奨励金を使った拡張戦略が重視され新車の開発などは滞りがちでした。しかしキックスはSUVやEVの技術を採用した車です。つまりキックスはゴーン体制との決別を示す象徴となります。技術の日産の復活があるか注目です。

#### AGCはバイオ医薬品に進出

AGCはガラスなどを手掛ける素材メーカーですが、最近ではバイオ医薬品分野に進出しています。先日は英国の薬品会社アストラゼネカが米国に持つ工場を100億円で買収しました。AGCが受託製造する新型コロナの治療薬候補レロンリマブが商品化された場合、生産拠点になる見通しです。

#### トヨタとメガバンクは宇宙開発

最後は宇宙開発です。6月25日付け読売新聞（夕刊）はトヨタ自動車や3メガバンクが出資し、宇宙開発に関わる新興企業などに投資するファンドを立ち上げたことが明らかになったと報じました。当初の資金規模は80億円、最終的には150億円規模にすることを目指すとのこと。宇宙開発のための人材育成にも役立たせる狙いです。日本ではこれまで宇宙開発は政府主導で進めてきました。しかし海外では民間企業が手掛けようとしている事例もあります。日本でこうした動きが出たことは望ましいと思います。このようにコロナショックで大きな打撃を受けながらも独自の成長戦略を考え実行している企業はいくつもあります。そうした企業を応援していきたいと思っています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。